

資料を基にして『意見文』を書こう！

いかがですか？『パンフレット作文』

佐渡市立大滝小学校 山口 洋一

お忙しいのにわざわざ私の実践を見てくださって、ありがとうございます。

今回は、私が日常で『書く力』育成のために実践している、『パンフレット作文』という取組について、紹介させていただきます。

1 パンフレット作文とは？

私は今、5・6年生を担当しています。するとたまに、パンフレットやガイドブックが送られてきます。いろいろな団体で、農業や工業、環境、自然など、それぞれで取り組まれていることを、絵や写真などを交えながら、子どもにもわかりやすく紹介してあります。

しかし、ただでさえ行事等で忙しい高学年、なかなか授業で扱う時間がとれず、結局どこかに置きっぱなし・・・みなさんも、そんな経験ありませんか？うちのクラスにはそんなパンフレットが、以前からあったものも含めて数十冊も残ってしまいました。

そこで、そんなパンフレットを有効活用しながら、子どもたちの『書く力』を育てたいということで考案したのが、『パンフレット作文』という取組なのです。

2 どんなふうにするの？

では、取組の流れを説明します。(①～④までを45分で進めます。)

①たくさん保管されているパンフレットを、クラスのロッカーの上などに、表紙が見えるようにしてズラリと並べる。

②子どもたちに、自分が読んでみたいパンフレットを一冊選ぶように伝える。

③選んだパンフレットを、15～20分程度読むように伝える。

④読んだ内容について、作文にまとめるように伝える。(15～20分)

☆字数は300～400字程度、文章構成は基本的に段落3つとする。

- ・読んだ内容について、初めて分かったことや、心に残ったこと
- ・読んだ内容についての自分の考え・意見、その理由
- ・まとめ(読んだ内容から、今後に望むこと、生かしたいこと)

⑤書かれた作文を回収し、添削後子どもたちに返す。

3 本当に、効果あるの？

1学期にあった県小教研のテストでは、平均点を大きく越えました。
つたない私の分析ですが、

- ①各段落の内容を固定することで、意見文の文章構成が理解できた。
- ②パンフレットを多用することで、資料を活用することに慣れてきた。
- ③常に原稿用紙に書き表すことで、マス目の入った紙に文章を書くことに抵抗感がなくなった。
- ④子どもたちが、自分の好きなパンフレットを選ぶことによって、活動に対しての抵抗感が薄れた。また活動を繰り返す中で、新たな知識を得ていくことに充実感を覚え、より意欲的に取り組むようになった。

などの点が、書く力向上につながったのではないかと考えています。

また、子どもたちが活動の流れを把握した後は、宿題として取り組めるようになりました。すると、学校での授業時間もとられなくて済むようになりました。

4 ここがポイントかも…

☆添削はなるべくその日のうちに！

子どもたちが書いたことを記憶しているうちに、添削し返せるようにしています。

☆必ずほめ言葉を！

添削では、段落構成でも、表現の工夫でも、さらには字のていねいさでもいいので、できるだけほめる言葉を書きます。

5 今回のまとめ

いかがでしたでしょうか？少しでもお役に立てたらうれしいです。

自分が今強く思っていることは、『事実を基にして、自分の意見・考えを書く』という文章構成が、意見文の基本であるということです。教科書で扱われている、意見文的な説明文も、書き出しや最後のまとめを除けば、よく見てみるとこの構成の連続だと、私は分析しています。

つまり、意見文を書くためには、この構成をまず把握し、書き慣れることが重要だと考えています。書き慣れれば、最後のまとめも書けるようになってきます。

以上、今回の実践紹介を終わります。文化祭間近で忙しい時期になってきましたが、身体に気を付けて、子どもたちの笑顔に向けてがんばりましょう！